

**With My Children**

# わが子と一緒に

**娘のありがとう**

夏休み最後の日、突然6歳の娘がご飯を食べられなくなつた。何度もご飯を口に運んでも飲み込めないと出してしまった。病院では心意的なものだと。それからひとさじのご飯を食べるのに3時間かかる日々が続いた。一生懸命食べようとする娘の姿に何もしてあげられない事が辛くて仕方なかつた。でも娘の頑張りで徐々に食べられる量が増え、ついに完食！ その時の「まま、おいしいご飯をありがとう」の言葉は一生忘れない。ありがとう。

**親子でつくつた玉子焼き**

夏休み親子料理教室に出かけてみた。食べることに全く興味のない小学四年の息子に少しでも食欲を持つてもらいたい一心で。シンプルな玉子焼きが自分で作るには最適だったのか、早速翌日チャレンジしてくれた。ふだん玉子焼きはお弁当の時しか焼かない私。砂糖を入れ過ぎたか焦げ目つきだったが形は上々。母子家庭で寂しい思いもさせてきた。ここまで成長したこと感謝しつつ、頬張ってみた。私より上手かも。涙が溢れた。

**初めての運動会**

「よーいドン」娘三歳初めての運動会、走る事は得意「一等賞になるもん」自信満々。いざその時「よーいドン」スタート良く飛び出し一等かと思いきや「ステン」と転び娘は大泣き。痛いのと悔しいので顔は涙で、ぐちゃぐちゃ「良く頑張ったね」娘を抱きしめた。その日の晩ごはん「がんばった賞」と書いたプレートを料理の上に置き、手作り金メダルには「一等賞」首にかけ大喜び、がんばるポーズに笑顔がこぼれた。





おいしさ あったかい フィールコーポレーション Take Free ご自由にお持ちください  
グッドフィーリング 特別号 2022 Spring

# Good Feeling

「食の楽しさ」発見！ おいしさと健康を考えた食生活のためのコミュニケーション誌

**第6回 フィール 食卓のありがとう！**

食卓にまつわる「感謝の気持ち」のエッセイ優秀賞をご紹介します！

## 2021年度 「優秀作品」発表！

食卓にまつわる“感謝の気持ち”のエッセイを募集したところ、本当にたくさんのご応募を頂き、誠にありがとうございました。2021年秋にご応募いただいた方の中から10名様の「優秀作品」を発表。「グッドフィーリング」特別号としてお届けします。





フジパン

# 家族の温かさ



心づかいがうれしくて。

ちよつとした

身近なひとの



初めての子育て。毎日目が回る忙しさの中離乳食の準備。SNS見てたら、○○は何ヶ月から、○○は何ヶ月までに…情報あふれすぎてパニックに。そんな時母から郵便物。なんと私が食べてた離乳食ノート。そして最後のページに「肩の力抜いて。考えすぎないでいいよ。あなたちゃんと育つんだから」超テキストレシピ。久しぶりに思いっきり笑えました。私も「ズボラ」めざします。ありがとう。

Warm Heart



## 母のくれた言葉



高校時代、母の作ってくれたお弁当は、お弁当箱いっぱいの焼きそばが定番で、お箸で麺を持ち上げると、お弁当箱の形に固まつた麺がガバッと取れてしまい少し恥ずかしかった。だから自分の娘のお弁当は彩りだけは気をつけていたのだが、ある朝、寝坊をして焦った私は、あの焼きそば弁当を娘に持たせたのである。その日の夕方、帰宅した娘は『レンジで温めたら美味しかった』と言つてくれた。電子レンジ よ、いや、母よ、ありがとう。

## 娘のプレゼント



娘が10才の母の日のプレゼントは味噌でした。数日前に「何か今ほしい物ある？」と聞かれ、味噌汁の味噌をお玉で溶いて私は「味噌こしかな。」と答えたつけ。そこで娘は一人でホームセンターに行き未知なる味噌こしを探し回ったそうです。それは小ぶりながらとても便利で丈夫で27年たつた今も健在です。使うたびに私のために味噌こしを探している小さな娘が目に浮かび、幸せな気持ちになり味噌汁もいつそう美味に！ ありがとうね。

## 小さなグルメリポーター



小学一年生の娘は、グルメリポーターのように美味しさを表現してくれる。「中はふんわり、外はカリッ」これは魚焼きグリルで焼いた厚揚げで、かぼちゃの場合は「焼きたてホクホクであまい！」となる。

どこでそんな言い方を覚えたの？と思つてみると、私より料理好きの夫が口にしている言葉だと気が付いた。夫よ、食べる楽しみを伝えていてありがとう。大きくなつたあの子の作る食卓が楽しみだね。

# 第6回 フィール 食卓のありがとう！ 2021年度「優秀作品」発表！



高校時代、母の作ってくれたお弁当は、お弁当箱いっぱいの焼きそばが定番で、お箸で麺を持ち上げると、お弁当箱の形に固まつた麺がガバッと取れてしまい少し恥ずかしかった。だから自分の娘のお弁当は彩りだけは気をつけていたのだが、ある朝、寝坊をして焦った私は、あの焼きそば弁当を娘に持たせたのである。その日の夕方、帰宅した娘は『レンジで温めたら美味しかった』と言つてくれた。電子レンジ よ、いや、母よ、ありがとう。

## 焼きそば弁当



大切なひとがつくった料理は  
ずっとわたしの  
こころの中に。

# 母の思い出



## 母のからあげ



私は鶏のからあげが大好きだ。気づいた時には火曜日がからあげの日で、毎週母がからあげを作ってくれていた。今にして思えば、体調のよくない日もあったかもしれない。それでも毎週作ってくれた。母のようにはできないかも知れないけれど、今度は私が自分が作ったご飯で息子を喜ばせてやりたい。

もう食べることはできないけれど、今でも私の一番好きな食べ物は、お母さんのからあげだよ。長い間、ずっとありがとう。



## 思い出のちらし寿司



白寿を目前に母が他界した。働き者で一日中ミシンにむかっていた母は料理が苦手で、幼い頃の母の味は近所の惣菜屋のコロッケだった。そんな母がたまに作るちらし寿司には何故からんごのスライスが必ず入っていた。高級食材の代わりだったのか、赤い色どりを工夫したのか、未だに謎のままだが、九十才を過ぎてからも、実家に帰ると重箱にぎっしりつまつたりんご入りのちらし寿司を持たせてくれた母の笑顔を忘れられない。

Memories of Mother ☆

※写真はイメージです。